



花
子
三
年
生

三

畳に仰向けに横たわる少女——
頬を紅潮させ潤んだ瞳でこちらを伺っている。

彼女の期待に応え麻柄の着物、そして下着の役目を果たす
腰巻をゆっくりとまくる。

フー……
フー……

あらわになった少女の白磁のような太もも、美しい縦筋、
そしてその上に装飾のように配された薄紅色の陰核、
それらがありなす少女とは思えない妖艶さに思わず
見惚れる



むー♡
んんっ♡

暫く心を奪われていたところ、口枷を嵌められ言葉にならない少女の不満気な声が現実に引き戻す

彼女は自身の足を大きく割り開き自身の秘所を見せつけるようにして「はやく〜」と「んんん」をいわんばかりに誘っている

んんん...
あ...



少女の誘惑に、限界に張り詰めた怒張を取り出すと
口枷の下で少女が淫蕩な笑みを浮かべたような気がした

んんん

刺激を待ちきれぬかのようにひくひくと蠢く
少女の淫らな秘裂に怒張をあてがい、一気に腰を落とす

ひく
ひく...♡

≡

≡



激しい注挿を再開すると
少女は悦楽にゆがんだ笑みを浮かべ
自らもさらに激しく腰をゆすりたてる

数刻であらゆる刺激が臨界に達しようとしていた
その予感を感じ取り、肉槌の最後の一撃を
少女の一番奥に向かい叩きつけた

あ
き

あ
き

あ
き
あ
き
あ
き
あ
き
あ
き



いあ

いあ

いあ

いあ

いあ

意識が途切れそうなほどの激しい絶頂。

少女も自身の奥に大量に注がれる精の感触の余韻に浸っている。

だが、わかっている。

数刻後、少女は陰茎を抜く間も与えず、行為の再開を求めるところを。そしてそれに抗えないことも。

眼前の美しく淫らな鬼は、無垢な少女のような笑顔で微笑んでいた。





